

会 師 医 市 牧 小 苦

師 医

市 村 一 義

気管支喘息

「先生、子供が離乳食をあまり食べなくなり、ミルクか果汁みたいのしか飲まないんですが」と、生後十カ月ほどの乳児を連れてお母さんが不安そうに尋ねる。診察すると、かすかに肺からゼイゼイと聞こえてくる。

「ぜんそくをおこしていますね」というと、お母さんはキョトンとした顔をする。普通、二

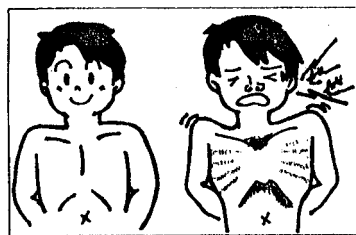
せきがついたら早めに受診

歳以下の乳児の気管支ぜんそくは、見逃されやすい。その原因はゼイゼイとか、ヒューヒューとかいった特徴ある音が弱く、親には聞こえないことがあるため、せきだけの軽い風邪として、そのまま様子をみていたり、売薬ですませたり、また、せきをしない場合もあったりするので、見た目にはふだんとさほどかわらないためである。

徐々に子供の食欲が落ちたり、不機嫌になったりして受診し、初めて気管支ぜんそくとわかることがよくある。実際、小児の気管支ぜんそくが二歳以下の乳幼児期のころから始まること、非常に多いにもかかわらず、このことは一般には、あまり知られていないため「こんな小な子供でもぜんそくになるんですか」と尋ねられるが、答え

はいエスである。

ぜんそくについては、多くの専門の先生が詳しく講演なさったり、本に書いていらつしゃるので、そちらを参考にしていただくことにして、実際にどの様な時に、受診してほしいか述べたい。せきの仕方が日中よりも夜中か早朝の方が比較的多いと感ずる。吸い込む息より、はく息の方が長いと思える。また、



気管支喘息を起こして非常に苦しい様子

どちらかというところ、たんのからんだせきが多いと感じたりする場合である。

もっとも、初期の段階では風邪と大差なく感じてしまつが、ぜんそくが重くなつてくると、親の耳にもゼイゼイとかヒューヒューとかいった特有の音が聞こえてくるし、さらに重くなれば食物などを摂取できず、脱水をおこして危険な状態になつていく場合もある。いずれにしても、お子さんにせきがつき出したら一度はぜんそくを疑つて、早めに受診することをお勧めしたい。